

## 研究結果報告書

中国における日本語の言語景観に関する研究 ― 認識と受容を中心に ―

所属： 大連理工大学 外国語学院 日本語学部

役職： 副教授

氏名： 孫 蓮花

中国の大連市内では、日本語看板、日本語案内表示などのいわゆる「日本語景観」が多くなっている。本研究では、大連における近年の日本語景観の変化の様相を明らかにするとともに、この新しい日本語景観が大連社会や大連に住んでいる中国人（以下、大連市民）にどのように認識され、受容されているのか、という点について2つの調査研究を通して考察した。

まず、大連の日本語景観の実態について調査し、それを2010年の同様の調査と比較しながら、その変化の様相について考察した。その結果、当時と比較して、看板等における表記は相変わらず漢字優勢ではあるものの、漢字と他の3種表記、つまり、日本語のひらがな、カタカナ、ローマ字との混用や併記が、大幅に増加していることが明らかになった。また、漢字表記の場合でも、漢字が表音文字として使われる場面が見られ、これは日本人が表音的に意味を捉えられる一方で、大連市民にも漢字の持つ表意性を生かして意味が伝わるというユニークな表現となっている。このような様相の変化は、大連社会の国際性を日本人にアピールしつつ、日本人と大連市民の協調性を示唆する効果も期待できると考えられる。

次に、大連市民を対象にアンケートとインタビューを行い、日本語景観が大連社会と市民にどのように認識され、受容されているのかを考察した。その結果、日本語景観は大連市民に全般的には肯定的に捉えられていることが明らかになった。大連市民には元々日本文化や日本製品に対して好印象を持つ市民が多く、それは市民の日本語学習者の多さ、大連市と日本側との積極的な交流などでも伺い知ることができる。一方で、日本語景観とその広がりについては表だって反発する市民は数少ないものの、無関心な態度を見せる市民もおり、調査を通して、現在の中日関係に関する報道が、市民の意識に微妙な影響を与えている様子も垣間見ることができた。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 大連市の日本語の言語景観とその変化について, 孫蓮花・林楽青, 第5回中日韓日本語文化研究国際シンポジウム, 2013年9月22日, 中国・大連大学
2. 大連の日本語景観に関する研究—ホスト社会の認識を中心に, 孫蓮花・林楽青, 第36回日本比較文化学会全国大会, 2014年6月14日, 日本・北九州国際会議場

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 浅析日本中华街的语言景观-与上海中餐店语言景观的比较为例, 孫蓮花・谷月, 『現代語文』30, 2013年10月, p108-110
2. 大連市の日本語の言語景観とその変化について, 孫蓮花・林楽青, 『日本語文化研究』5, 2014年12月, p153-157

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)